

## ドイツ語（初級 B） 第 28 回 序数

範囲：教科書第 17 課 (S. 67-69)

### 《今回の基本例文》

100. Wann ist dein Vater geboren?

– Er ist am neunzehnten Juni neunzehnhundertsiebenundachzig geboren. (CD88-3)

君のお父さんはいつお生まれですか？ – 父は 1987 年 6 月 19 日に生まれました。

〔序数、西暦年、月日、（状態受動）〕

## I 数詞（序数）

### ■ 序数

序数 = 基数 + t (19.まで)

基数 + st (20.から)

例外 : **erst** (1.) , **dritt** (3.) , **acht** (8.)

◇ 序数は「～番目の」を表す数詞で、英語の *first, second, third...* に相当する。算用数字で記述する場合、「1.」や「12.」のようにピリオドをつける（国際共通）。

- ・1～19 は **基数 + t** : 1. **erst** (例外) , 2. **zweit** , 3. **dritt** (例外) , 4. **viert** , 5. **fünft** , 6. **sechst** , 7. **sieb[en]t** , 8. **acht** (例外) , 9. **neunt** , 10. **zehnt** , 11. **elft** , 12. **zwölft** , 13. **dreizehnt** , 14. **vierzehnt** , 15. **fünfzehnt** , 16. **sechzehnt** , 17. **siebzehnt** , 18. **achtzehnt** , 19. **neunzehnt**
- ・それ以降は **基数 + st** が基本 : 20. **zwanzigst** , 21. **einundzwanzigst** , 22. **zweiundzwanzigst** ...  
100. **hundertst** , 101. **hunderterst** ...

◇ 付加語として用いられるので、付加語的用法の形容詞と同じ変化をする。

### 《形容詞の復習》

用法 : a) 付加語、d) 名詞化（格変化あり）

b) 副詞、c) 述語（格変化なし）

格変化 : 無冠詞 → 強変化

定冠詞（型）つき → 弱変化

不定冠詞（型）つき → 混合変化

\* 強変化／弱変化／混合変化の表は教科書 S. 39-40 を、それらの覚え方は授業第 17 回配付資料 S. 3-4 を参照のこと。

◇ 建物の「階」は、日本語や英語における 1 階を *Erdgeschoss* (n. 地階) と呼び、日本語や英語における 2 階以降を *n-1* の序数を用いて表す。「階」は *Stock* (m.) か *Etage* (f.)。

\* *Etage* はフランス語からの外来語で、フランス語式発音になる。

Ich wohne im 5. (fünften) Stock.

= Ich wohne in der 5. (fünften) Etage.

私は 6 階に住んでいる。

◇ 高校以前の「**学年** (Klasse *f.*)」は、最初の小学校入学からの通算年数を序数で表す。大学以降は、あまり学年という考え方をせず、在籍した学期 (Semester *n.*) 数を言うことが多い。

\* 地域によって異なるが、一般的には小学校 (Grundschule *f.*) が 4 年制、ギュムナジウム (Gymnasium *n.*) が 9 年制。大学非進学予定者は小卒後に基幹学校 (Hauptschule *f.*) や実科学校 (Realschule *f.*) に行く。

Ich gehe in die elfte Klasse des Gymnasiums.

私はギュムナジウム 11 年生です。

\* 小学校入学から数えて 11 年目という意味。日本での高校 2 年生に相当する。小学校を 4 年生とすると、ギュムナジウム自体には 7 年目になる。

\*\* 「11 年目のクラス」が gehen の目的地に相当するため、in+4 格が使われている。

Ich bin im zweiten Semester.

私は（大学の）2 学期目に在学中です。

\* 日本での大学 1 年生後期に相当する。

## 1 月日・西暦年数 (S. 68)

日一月一年の順

日：序数（男性）、前置詞は **am**

月：固有名、前置詞は **im**

年：基数（1 年～1099 年、2000 年以降）

上 2 桁 + **hundert** + 下 2 桁（1100 年～1999 年）、前置詞は **なし**

◇ ドイツ語の西暦年月日は、日一月一年の順。「日」を算用数字で書いた場合、句点を打つ。

\* 日本語（年一月一日）とも米式英語（月一日一年）とも異なり、英式英語と同じ。

9. Dezember 2025 = der neunte Dezember zweitausendfünfundzwanzig (ドイツ語)

December 9, 2025 = December [the] nineth, two thousand twenty-five (米式英語)

2025 年 12 月 9 日（日本語）

◇ 「日」は、

・**男性定冠詞つき序数**で表す。「～番目の日 (Tag *m.*)」であるため。

Der Wievielte ist heute? / Den Wievielten haben wir heute?

今日は何日ですか。

- Heute ist der 3. (dritte) Juli. / Heute haben wir den 3. (dritten) Juli.

今日は 7 月 3 日です。

\* wievielt は序数を尋ねる疑問詞（何番目の）。定冠詞をつけて形容詞変化（弱変化）する。語頭大文字にする場合もある。

・「～日に」と言うとき、前置詞 **an** を用いる。ただし、前述のように「日」は**男性定冠詞つき序数**で表すので、実質的には **an+dem** の融合形の **am** が現れる。

Wir haben **am** 5. (fünften) April geheiratet.

私たち 4 月 5 日に結婚しました。

◇ 曜日は以下の通り。曜日はすべて男性名詞なので、「何曜日に」にはやはり *am* を用いる。

日本語	ドイツ語	(英語)	ドイツ語の曜日の由来
日曜日	<b>Sonntag</b>	<i>Sunday</i>	太陽 (Sonne <i>f.</i> ) の日
月曜日	<b>Montag</b>	<i>Monday</i>	月 (Mond <i>m.</i> ) の日
火曜日	<b>Dienstag</b>	<i>Tuesday</i>	テュール (Tyr) の日
水曜日	<b>Mittwoch</b>	<i>Wednesday</i>	週 (Woche <i>f.</i> ) のまんなか (Mitte <i>f.</i> )
木曜日	<b>Donnerstag</b>	<i>Thursday</i>	雷 (Donner <i>m.</i> ) の日 = トール (Thor) の日
金曜日	<b>Freitag</b>	<i>Friday</i>	フリッギ (Frigg) の日
土曜日	<b>Samstag / Sonnabend</b>	<i>Saturday</i>	サバトの日／日曜日の前夜 (Abend <i>m.</i> )

\* 基本的には英語と似ており、同じくゲルマン神話の神々に由来している。ただし、水曜日の *Mittwoch* 「週のまんなか」に注意。もともとは英語 (*Wednesday*) と同じ「ヴォータン (= 北欧神話のオーディン) の日」 *Wotanstag* だったらしい。

Die Sitzung findet am Freitag, dem 15. (fünfzehnten) Januar in der «Kleinen Halle» statt.

会議は 1 月 15 日金曜日に「小ホール」で開催されます。

\* *Freitag* と同格であるため、「1 月 15 日」は *dem* 以下の 3 格で記載されている。

\*\* 動詞は分離動詞 *statt* *finden* (*vi.* (イベントなど) 開催される)。

◇ 「月」は、英語同様に固有名があるので、まずそれを覚える。

日本語	ドイツ語	(英語)	ドイツ語や英語の月名の由来
1 月	<b>Januar</b>	<i>January</i>	ローマ神話の神ヤヌス (Janus)
2 月	<b>Februar</b>	<i>February</i>	ラテン語の動詞 <i>februare</i> ( <i>vt.</i> 清化する)
3 月	<b>März</b>	<i>March</i>	ローマ神話の神マルス (Mars)
4 月	<b>April</b>	<i>April</i>	ギリシャ神話の神 Aphrodite (アプロディテ)、もしくはラテン語の動詞 <i>aperiare</i> ( <i>vt.</i> 開ける)
5 月	<b>Mai</b>	<i>May</i>	ギリシャ神話の神 Maia (マイア)、もしくはラテン語の形容詞 <i>maior</i> (年老いた)
6 月	<b>Juni</b>	<i>June</i>	ローマ神話の神 Iuno (ユノー)、もしくはラテン語の形容詞 <i>iunior</i> (若い)
7 月	<b>Juli</b>	<i>July</i>	ローマ史の人物 Iulius Caesar (ユリウス・カエサル)
8 月	<b>August</b>	<i>August</i>	ローマ史の人物 Augustus (アウグストゥス)
9 月	<b>September</b>	<i>September</i>	7 番目の月
10 月	<b>Oktober</b>	<i>October</i>	8 番目の月
11 月	<b>November</b>	<i>November</i>	9 番目の月
12 月	<b>Dezember</b>	<i>December</i>	10 番目の月

\* 英語と綴りが微妙に異なるもの (*Oktober*, *Dezember* など) がある。当然、発音はすべてドイツ語式。

\*\* 由来については国立天文台の「暦 Wiki」 (<https://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi/wiki/>) を参照。9~12 月が由来と 2 ヶ月分ずつされているのは、当初は存在しなかった 1 月と 2 月をあとから追加したため。

・「～月に」と言うとき、前置詞 *in* を用いる。ただし、月名はすべて男性名詞で定冠詞をつけるので、実質的には *in+dem* の融合形の *im* が現れる。

◇ 「西暦年」は、

- ・ 1 年から 1099 年まで、および 2000 年以降：单なる基数でよい。
- ・ 1100 年から 1999 年まで：上 2 枢+hundert+下 2 枢 (○○×100+△△という考え方)。

\* 上 2 枢と下 2 枢を分けて考えるのは英語と同じだが、ドイツ語では **hundert** が必要。

\*\* また、英語と異なって分かち書きもしない。「1999 年」は英語では *nineteen ninety-nine*、ドイツ語では **neunzehnhundertneunundneunzig**。

- ・「～年に」と言うとき、通常は前置詞を用いず、**副詞的 4 格**とする。

◇ 生年を言う場合、**gebären** (vt. 〈4 格〉を生む) の状態受動を用い、時制は現在形にする。

\* **gebären** は不規則動詞で、3 基本形は **gebären- gebar - geboren**。

Ich bin **am** 16. (sechzehnten) Mai 1991 (neunzehnhunderteinundneunzig) in Heidelberg geboren.

私は 1991 年 5 月 16 日にハイデルベルクで生まれました。

\* 年月日をすべて言うときは、日月年の順番になるので、前置詞は「日」につける **am** だけでよい。

◇ 書類や手紙に日付を書く場合は、副詞的 4 格を用いるか、単に 1 格とする。

Tokyo, **den** 9. (neunten) Dezember 2025 (zweitausendfünfundzwanzig)

Tokyo, 9. (neunter) 12. (zwölfter) 25 (zweitausendfünfundzwanzig)

\* 下は略式の書き方で、正式名称の代わりに数字（日本語の n 月と同じ）で表している。その場合、「日」同様に序数を用いる。

無冠詞のためいづれも強変化 1 格をしている。

**練習**

次の西暦年をドイツ語で言え。

1. 794 2. 1192 3. 1333 4. 1492 5. 1600 6. 1789 7. 1815 8. 1848 9. 1968 10. 2001

◇ 四季名は以下の通り。四季名はやはりすべて男性名詞なので、「春夏秋冬に」と言うときは in+dem の融合形の **im** が現れる。

日本語	ドイツ語	(英語)
春	Frühling	<i>spring</i>
夏	Sommer	<i>summer</i>
秋	Herbst	<i>autumn / fall</i>
冬	Winter	<i>winter</i>

\* Sommer と Winter の綴りは英語と酷似しているが、もちろん発音はドイツ語式になる。

Im Winter sind die Tage am kürzesten. (⇒教科書 S. 63)

冬には日が一番短くなる。

## II 読解練習

### 読解練習 1

注を参考に次の文章を読み。なお、出典はアドルフ・ヒトラーの著書『我が闘争』をめぐる 2010 年代のニュースである。

„Mein Kampf“ ist eine wichtige Quelle für die Zeit des Nationalsozialismus. Adolf Hitler hat in dieser Propagandaschrift eine menschenverachtende Ideologie, seinen Rassismus und Judenhass sowie sein politisches Programm dargelegt.

Nach 1945 übertrugen die alliierten Siegermächte die Urheberrechte dem Freistaat Bayern. Der will die verheerende Hetzschrift nicht mehr veröffentlichen. Ende des Jahres 2015, 70 Jahre nach dem Tod von Hitler, erloschen die Urheberrechte. Seit Januar 2016 darf jeder theoretisch das Buch wieder drucken. Den Tatbestand der Volksverhetzung erfüllt es nämlich immer noch. Und der ist strafbar.

Um das verhängnisvolle Buch zu entmystifizieren, übernahm das Institut für Zeitgeschichte München-Berlin (IfZ) die Ausgabe, den Text mit Kommentaren zu versehen. Nun ist Hitlers unheilvolle Schrift ein weiteres Mal in ihrer Geschichte zum Bestseller geworden. Buchhändler berichten, dass sie vor allem von Kunden gekauft wird, die sich für Geschichte und Politik interessieren. Neonazis haben kein besonderes Interesse daran. Das Bildungsministerium plant den Einsatz der kritischen Neuausgabe in Schulunterricht. Im besten Falle ist nun aus „Mein Kampf“ ein historisches Dokument geworden, das bei der Aufarbeitung der NS-Zeit hilfreich sein kann.

### 《語注》

„Mein Kampf“ 『我が闘争』（アドルフ・ヒトラーの著書） wichtig *adj.* 重要な *Quelle f.* 情報源  
Nationalsozialismus *m.* 国民社会主義（ナチズム） Propagandaschrift *f.* 宣伝文書  
menschenverachtend *adj.* 人間侮蔑的な *Ideologie f.* 思想 Rassismus *m.* 人種差別  
Judenhass *m.* ユダヤ人嫌悪 sowie *conj.* ならびに politisch *adj.* 政治的な  
darlegen *vt.* ～を表現する übertragen 〈3 格〉に 〈4 格〉を移す（過去基本形：übertrug）  
die alliierten Siegermächte *pl.* 連合国 Urheberrecht *n.* 著作権（複数：-e）  
Freistaat Bayern *m.* バイエルン自由州 verheerend *adj.* 破壊的な Hetzschrift *f.* 扇動文書  
veröffentlichen *vt.* ～を出版する Ende *n.* 終盤 Tod *m.* 死  
erlöschen *vi.* 消滅する（過去基本形：erlosch） theoretisch *adv.* 理論的には  
drucken *vt.* 〈4 格〉を印刷する Tatbestand *m.* 構成要件 Volksverhetzung *f.* 民衆扇動罪  
erfüllen *vt.* 〈4 格〉を満たす nämlich *adv.* もっとも immer noch いまで  
strafbar *adj.* 有罪である verhängnisvoll *adj.* 致命的な  
entmystifizieren *vt.* 〈4 格〉を脱神秘化する（= 危険な魅力を取り除く）  
übernehmen *vt.* 〈4 格〉を引き取る（過去基本形：übernahm）  
das Institut für Zeitgeschichte München-Berlin (IfZ) ミュンヘン・ベルリン現代史研究所  
Ausgabe *f.* 版 Text *m.* 原文 Kommentar *n.* 注釈（複数：-e）  
et<sup>4</sup>. mit et<sup>3</sup>. versehen 〈4 格〉に 〈3 格〉を備えつける nun *adv.* いま unheilvoll *adj.* 危険な  
Schrift *f.* 文書 ein weiteres Mal ふたたび Bestseller *m.* ベストセラー

Buchhändler *m.* 書店（単複同形） berichten *vt.* 〈4 格〉 を報告する vor allem 特に  
Kunde *m.* 客 Geschichte *f.* 歴史 Politik *f.* 政治 Neonazis *pl.* ネオナチ besonder *adj.* 特別な  
Interesse an *et<sup>3</sup>*. *n.* 〈3 格〉 への関心 Bildungsministerium *n.* 文部省  
planen *vt.* 〈4 格〉 を計画する Einsatz *m.* 使用 kritisch *adj.* 校訂された Neuausgabe *f.* 新版  
Schulunterricht *m.* 学校の授業 im besten Falle せいぜい historisch *adj.* 歴史の  
Dokument *n.* 資料 Aufarbeitung *f.* 再検討 NS-Zeit *f.* ナチ時代 hilfreich *adj.* 助けになる

## 読解練習 2

注を参考に次の文章を読み。なお、出典は 2023 年度大学入学共通テスト「ドイツ語」の長文問題である（ただし、段落を一部削除し、表現も学習進度に合わせて変更してある）。

Der Roman *Klara und die Sonne* des Literaturnobelpreisträgers Kazuo Ishiguro spielt in einer nahen Zukunft und wird von einem Roboter erzählt. In dieser Zukunftswelt werden menschliche Roboter mit künstlicher Intelligenz (KI) als „künstliche Freunde“ für Teenager verkauft und leben mit ihnen in der Familie. Die Ich-Erzählerin Klara ist so eine künstliche Freundin. Weil Klara ein Computer ist, hat sie ein sehr breites Wissen und verarbeitet Informationen sehr schnell. So kann sie zum Beispiel nicht nur das Alter von Personen richtig bestimmen, sondern auch Emotionen mithilfe von Gesichtsausdruck, Körperhaltung und Sprache einschätzen. Aber kann Klara wirklich Gefühle verstehen? Und hat sie selbst Gefühle? Diese Fragen führen uns zum Thema des Romans: Was bedeutet es für uns Menschen, wenn KI-Roboter ein Bewusstsein und Emotionen haben wie ein Mensch?

Wie stellt Ishiguros Roman dieses Thema in künstlicher Intelligenz dar? Der Text wird aus der Perspektive des Roboters Klara erzählt, und Klara scheint genau wie wir Menschen zu denken und zu fühlen. Auch sie selbst ist manchmal glücklich, manchmal traurig oder besorgt und hat nie Zweifel daran, dass sie Emotionen hat.

Das führt zu weiteren Fragen: Wenn der KI-Roboter Klara ein eigenes Bewusstsein hat, was ist dann der Unterschied zu einem Menschen? Kann man also sagen, dass Klara eine Persönlichkeit hat? Wenn sie selbst wie ein Mensch denkt und fühlt, müssen die Menschen sie auch menschlich behandeln? Was soll man tun, wenn man Klara nicht mehr braucht: Darf man sie dann wegwerfen? Ishiguros Roman zeigt uns mögliche Gemeinsamkeiten von KI-Robotern mit Menschen und fragt uns, welchen Platz sie in der Gesellschaft haben sollen.

## 《語注》

Roman *m.* 長篇小説 *Klara und die Sonne* 『クララとお日さま』（題名）  
Literaturnobelpreisträger *m.* ノーベル文学賞受賞者 spielen *vi.* （小説の）舞台となる  
nah *adj.* 近い Zukunft *f.* 未来 Roboter *m.* ロボット（単複同形） erzählen *vt.* 物語る  
Zukunftswelt *f.* 未来世界 menschlich *adj.* 人間的な künstlich *adj.* 人工の Intelligenz *f.* 知能  
als ～として（英：as） Teenager *m.* ティーンエイジャー（単複同形）  
verkaufen *vt.* 〈4 格〉 を売る Ich-Erzählerin *f.* 一人称話者（小説における「私」のこと）  
breit *adj.* 広い Wissen *n.* 知識 verarbeiten *vt.* 〈4 格〉 を加工する  
Information *f.* 情報（複数：-en） schnell *adj.* 速い so *adv.* そのように zum Beispiel 例えば

nicht nur A, sondern auch B = *not only A, but also B* Alter *n.* 年齢 Person *f.* 人間（複数：-en）  
richtig *adj.* 正しい bestimmen *vt.* 〈4 格〉を算定する Emotion *f.* 感情（複数：-en）  
mithilfe von *et<sup>3</sup>*. 〈3 格〉の助けで Gesichtsausdruck *m.* 表情 Körperhaltung *f.* 身振り  
Sprache *f.* 言語 einschätzen *vt.* 〈4 格〉を評価する wirklich *adv.* 本当に  
Gefühl *n.* 感情（複数：-e） selbst *adv.* 自身で zu *et<sup>3</sup>*. führen *vt.* 〈4 格〉を 〈3 格〉に導く  
Thema *n.* テーマ bedeuten *vt.* 〈4 格〉を意味する Bewusstsein *n.* 意識  
darstellen *vt.* 〈4 格〉を表現する Text *m.* (小説の) テキスト Perspektive *f.* 視点  
scheinen *vi.* 見える genau *adv.* まったく fühlen *vi.* 感じる manchmal *adv.* しばしば  
glücklich *adj.* 幸せな traurig *adj.* 悲しい besorgt *adj.* 不安な Zweifel *m.* 疑い  
weiter *adj.* さらなる eigen *adj.* 自身の dann *adv.* では (=then) Unterschied *m.* 差異  
also *adv.* それゆえに Persönlichkeit *f.* 人格 behandeln *vt.* 〈4 格〉を扱う  
brauchen *vt.* 〈4 格〉を必要とする wegwerfen *vt.* 〈4 格〉を捨てる  
zeigen *vt.* 〈3 格〉に 〈4 格〉を示す möglich *adj.* ありうべき  
Gemeinsamkeit *f.* 共通性（複数：-en） Platz *m.* 場所 Gesellschaft *f.* 社会

**《文法注》**

uns Menschen 我々人間（同格）  
wie ein Mensch 人間のように（この wie は英語の *like* と同じ）  
wie wir Menschen 我々人間のように（wir と Menschen は同格、この wie は *like*）  
Zweifel daran, dass ~ ~ という疑い（daran は an+仮目的語 es の融合形、es の内容が dass 節）

### 読解練習 3

語注を参考に次の文章を読め。なお、出典は 2016 年度センター試験「ドイツ語」の長文問題である（ただし、段落を一部削除し、表現も学習進度に合わせて変更してある）。

Es gibt Dinge, die man nur als Kind perfekt lernen kann: Die Muttersprache ist ein gutes Beispiel dafür. Als Erwachsener kann man eine Sprache nie so vollkommen erlernen wie ein Kind. Wenn ein Kind mit zwei verschiedenen Sprachen groß wird, - z. B. weil die Eltern verschiedene Muttersprachen haben -, ist es sogar möglich, dass es beide Sprachen perfekt beherrscht. Diese Fähigkeit geht mit der Zeit verloren. Zwar kann man als Erwachsener eine neue Sprache noch erlernen, aber man kann sie in den meisten Fällen nicht vollkommen akzentfrei sprechen. Allerdings bedeutet das nicht, dass die Lernfähigkeit überhaupt bei Erwachsenen schwächer sind.

Beim Lernen spielt unsere Merkfähigkeit eine große Rolle. Es wird oft gesagt: „Wir erleben im Alter von etwa 20 Jahren den Höhepunkt unserer Merkfähigkeit. Danach wird es allmählich schwerer, sich etwas Neues zu merken.“ Man kann aber die Merkfähigkeit des Gehirns trainieren, genauso wie andere körperliche Fähigkeiten. Durch gezieltes Training bleibt unser Gehirn ins hohe Alter fit. Ein gutes Beispiel dafür sind ältere Schauspieler, die immer noch neue Texte auswendig lernen können.

### 《語注》

Ding *n.* ものごと（複数：-e） als ~ として（英：as） perfekt *adj.* 完璧な  
Muttersprache *f.* 母語 Beispiel *n.* 例 der Erwachsene 成人（形容詞変化）

vollkommen *adj.* 完全な erlernen *vt.* 〈4 格〉 を習得する verschieden *adj.* 異なつた  
z. B. = zum Beispiel 例えば（英 : *for example*） sogar *adv.* ～さえ（英 : *even*）  
möglich *adj.* 可能な beide 両方の（英 : *both*） beherrschen *vt.* 〈4 格〉 をマスターする  
Fähigkeit *f.* 能力（複数 : -en） verloren | gehen *vi.* 失われる zwar *adv.* 確かに  
Fall *m.* 場合（複数 : -e） akzentfrei *adj.* なまりのない allerdings *adv.* もっとも  
Lernfähigkeit *f.* 習得能力 überhaupt *adv.* 全般に schwach *adj.* 弱い（比較級 : schwächer）  
Merkfähigkeit *f.* 記憶力 erleben *vt.* 〈4 格〉 を生きる Alter *n.* 年齢 Höhepunkt *m.* 頂点  
allmählich *adv.* 徐々に sich<sup>3</sup> et<sup>4</sup> merken 〈4 格〉 を覚える Gehirn *n.* 脳  
trainieren *vt.* 〈4 格〉 をトレーニングする genauso wie まさに～のように  
ander ほかの körperlich *adj.* 身体的な gezielt *adj.* 的を絞った fit *adj.* コンディションのよい  
Schauspieler *m.* 俳優（单複同形） auswendig lernen 暗記する

#### 連絡先など

教員のメールアドレス : tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進度表示、配付資料あり）: <https://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>